学校番号	3006

令和８年度　工業科（工業デザイン系）

教科	工業	科目	工業デザイン実習	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	デザイン実践						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

工業デザイン実習では、２年間工業デザインで学んできたことを基にして店舗設計をする。まず、どんなお店を作るのかを考える。最初のコンセプトワークをしっかりさせ、お店のロゴ・マークを制作する。その後、ロゴ・マーク・コンセプト・カラープランとともにロゴもしくはマークの入ったアイテムを作り、プレゼンテーションボードにまとめて発表する。発表後はそのお店のインテリアモデルを制作する。プレゼンテーションボードにまとめて発表する。

2　学習の到達目標

工業デザインに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得したものを生かして実際に使用できるレベルの作品作りに挑む。
使用する人の立場になりコンセプトワークを展開する。人に優しいデザインとは何か。クライアントが満足するものは何か。しっかり考えて判断することが大事である。プレゼンボードやインテリアモデルを用いていかに表現出来るかを学ぶ。
店舗設計に関する課題について関心をもち、その改善・向上を主体的に取り組むことができる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生徒が工業デザインに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。 環境に配慮し、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	生徒がコンセプトワークに関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	生徒が店舗設計に関する課題について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	コンセプトワーク・ロゴ・マーク・アイテム制作	・コンセプトワーク ・マーケティングリサーチ ・プレゼンテーションボードの制作 ・発表 ・ロゴ・マークの制作 ・アイテムの制作	a: 生徒のアイテムの形が創意工夫されたものである。ロゴとマークにあったものである。マーケティングリサーチを元に、プレゼンテーションボードがバランスよくレイアウトされていて、クライアントが満足出来る発表ができている。 b:生徒の発表がコンセプトワークに基づいて、的確に表現出来ている。プレゼンテーションでクライアントにしっかり説明できている。 c:生徒がより良い店舗設計のために様々な角度から工夫して考えている。制作には妥協せずに最後まで努力する。	課題 プリント	課題 レポート 発表会	観察、 振り返りシート
2学期	発表・インテリアモデル制作	・プレゼンテーションボードの制作 ・発表 ・コンセプトワーク ・平面図作成 ・床・壁の制作、家具の製作、小物の製作 ・仕上げ加工	a:生徒の発表用ボードが 1 学期に作った作品のコンセプトに基づいて設計が出来ている。動線を考えて平面図を作成する。 b:生徒がインテリアモデルの家具や小物を正確に作る。その際、色彩計画に基づいて着彩する。コンセプト・ロゴ・マーク・カラープラン・アイテムがプレゼンテーションボードにバランス良くレイアウトされている。 c:生徒がプレゼンテーションボードを使用して丁寧で分かりやすい説明が出来ている。声の大きさ、時間配分、態度・姿勢が出来ている。	課題 プリント	課題 レポート 発表会	観察、 振り返りシート
3学期	プレゼンテーションモ	・インテリアモデルの撮影 ・プレゼンテーションボードの制作 ・発表	a:生徒がこれまでに作った作品のコンセプトに基づいてプレゼンテーショボードを制作できている。	課題 プリント	課題 レポート 発表会	観察、 振り返りシート

	デル制作・発表		インテリアモデルの写真をプレゼンテーションボードに必要な構図で撮影する。 b:インテリアモデルを平面図に従って完成させる。合理的にレイアウトする。 c:生徒が発表会に使用するプレゼンテーションボードを美しく制作し、そのボードを用いて最後にクライアントに分かりやすく説明する。			

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	3006

令和８年度　工業科（工業デザイン系

教科	工業	科目	工業デザイン実習（選択）	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	デザイン実践						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

これまで生徒が学んできたデザインを昇華させて、更に将来自分が取り組んでゆきたいデザインの分野についてより深く、より実践的に学習し作業していく。自分の選んだデザインの分野で更なる技術を学び、自分が表現することを他者にも伝わるようにする。生徒が２年生まで学んだトレース技能検定、イラストレータ検定の資格取得を目指す。

３種類のテーマから生徒が選択する。１．イラストレータ検定等（資格取得）、２．トレース技能検定等（資格取得）、３．動画編集

2　学習の到達目標

これまで習得してきた工業デザインの基礎的、基本的な知識と技術を生かし、将来自分が実践応用できるように取り組む。作品などは、クライアント、使用者、制作者など人の立場を理解し合理的、能率的、経済的にその目的が達成されているか理解する。資格取得班はひとつでも多く検定試験に合格を目指す。動画班はオリジナルの童話の映像を制作する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生徒がデザインに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。 環境に配慮し、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	生徒がデザインに関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	生徒がデザインの課題について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	資格取得(トレース技能検定・イラストレータ検定)・動画基礎	・トレース技能検定・資格取得のために実技を習得する。 ・イラストレータ検定取得のために練習課題を学習する。 ・アフターエフェクト、プレミアの基礎的な練習	a：生徒が三角定規、コンパス、円定規、ロットリングペンなど扱いかたが正しい。線の分類、図面の記号が理解できている。イラストレータ・アフターエフェクトのツールを理解できている。 b：生徒が効率的に作業できている。線の使い分け、図面が綺麗である。イラストレータ・アフターエフェクトで作りたい作品を表現できている。 c：生徒が集中力を保ち資格取得・動画編集に意欲的に取り組んでいる。提出期限内に完成できている。	課題 プリント	課題 レポート	観察、 振り返り シート
2学期	資格取得(トレース技能検定・イラストレータ検定)・コンペ1・動画中級	・トレース技能検定・資格取得のために理論と実技を習得する。検定試験終了後、イラストレータ検定の練習に入る。 ・イラストレータ検定の応用、コンペティション(ポスター、ロゴ、ピクトグラム)にチャレンジする。 ・アフターエフェクト、プレミアを使って動画を作成する。	a：生徒が模擬試験の結果を参考にして、自分の欠点をなくすように心がけて図面を描く。イラストレータの実技問題を練習する。コンペのテーマについて調査する。アフターエフェクトとプレミアの練習を行う。 b：生徒が図面の正確さ、美しさを極める。コンペ作品がテーマに沿った美しい表現をする。美しく、自然な動画編集を行う。 c：生徒が集中力を保ち資格取得・コンペ・動画編集に意欲的に取り組んでいる。提出期限内に完成できている。	課題 プリント	課題 レポート	観察、 振り返り シート

3学期	資格取得(イラストレータ検定)・コンペ2・動画上級	・イラストレータ検定の実践問題練習を行う。 ・イラストレータ検定の応用、コンペティションにチャレンジする。 ・アフターエフェクトとプレミアを作ってオリジナル童話を作成する。	a:生徒がイラストレータ検定の模擬試験の手引書を理解する。必要なツールを使える。コンペのコンセプトに応じた作品を作る。動画編集する童話を作成する。 b: 生徒がイラストレータ検定の課題を手引書通りに時間内に作成する。コンペ作品がテーマに沿った美しい表現をする。生徒が考えた童話のストーリー通りに美しく、自然な動画編集を行う。 c: 生徒が集中力を保ち資格取得・コンペ・動画編集に意欲的に取り組んでいる。提出期限内に完成できている。	課題 プリント	課題 レポート 発表会	観察、振り返りシート

表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度